

余罷秩，歸品物。旣東流，訪

金玉長史。張公清師半

長安。天時在壯，敵主甜。正有

君羣。張師溥，乞筆。唐或存得

書情曰：神妙律頃在長安。二

年師卒。張子暨不家傳授人。或

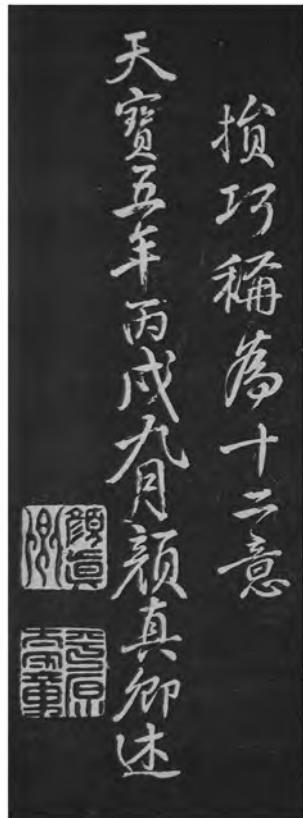
問筆。法若皆大笑而已。即

「顔真卿の書」⑫

「顔真卿筆法十二意帖」 (聴雨樓帖本)

図③巻末比較

和刻本



図②和刻本巻頭

聴雨樓帖本



(今回で、顔真卿の書は、終了します。次回からは、これまで書の周辺の作品資料を求めてきた折の経緯を「落ち穂拾い記」として書きます。)

天寶五年丙戌九月顔真卿述
巧補為十二意
天寶五年丙戌九月顔真卿述
巧補為十二意

「顔真卿筆法十二意帖」は、書法の理論として有名であるが、顔真卿が自ら行草体で書いた作品を知る人は、意外に少ないのではなかろうか。右に示した帖は、清朝後期に制作された「聴雨樓帖」(四巻)に収録されている「顔真卿筆法十二意帖」(『顔真卿述張長史筆法十二意帖』とも)です。顔真卿の師とされる唐の書人・張旭が述べた書の秘訣を、真卿自ら書いたとされる作品です。伸びやかな行書体ですが、「争座位帖」や「祭姪稿」のような躍動感ある書とは、大分趣が異なります。古くから文章そのものが、偽作だとも言われています。しかし、日本の江戸後期には、この作品はすでに知られていました。おそらく、この聴雨樓帖本「顔真卿筆法十二意帖」をもとに、日本で「顔真卿筆法十二意帖」が、法帖として刊行されています。図②に示したのが、日本で刻された「顔真卿筆法十二意帖」です。末行の「天寶五年丙戌九月顔真卿述」の横には、聴雨樓帖本などには見られない「顔真卿」「平原太守章」(白文印)まで刻されています。図③当時の書法を学ぶ人々の「唐もの」に対するあこがれが、感じられます。

書道芸術院 令和の群像 (2019)



第72回書道芸術院展 「今を生きる」

大 槻 秀 碧 書



大 槻 秀 碧

はじめに、台風15号・19号・21号により東北・関東地方は、甚大な被害を受けました。毎日テレビのニュースを見て、書道芸術院の先生方の中に被害を受けられた方が、おられるのではないかと心を痛めていました。私は8年前の東日本大震災で被災した一人ですが、断水と停電が続き10日後に見たテレビの映像は衝撃でした。書道芸術院から温かい御支援を受け、頑張ろうと思いました。改めて御礼申し上げます。

さて、私が書を学び始めたのは高校1年の時です。白石市内で多くの門人に御指導をされたいた浜田一堂先生の教室へバスで片道1時間かけ通い続けました。

「正しい書の学び方とは、よい師を得、よい先輩をもち、よい友人を持って、よい環境の中でよい手本（古典）をよく習うことである。」（大澤雅休書話より）言葉通り私は大変恵まれた中で、宮城野書人会の超濃墨と柔毛筆から生まれる線の美しさに惹かれ、楽しく学んできました。「競書の審査をしていても、一流書展で入賞している作家でも、古典の臨書作となると、

誤字もさることながら用筆法が浅薄で粗野であることを感じる。」「私はその永遠の書を生む原動力は、臨書の鍛錬より道はないと考えて習ってきた。或は驚きと笑われるかもしれないが、古典の中に藏されている栄養は、計り知れないものがある。」（翠柳臨書帖）私はこの言葉により大いに反省し、臨書をするようになります。

掲載した作品は第72回書道芸術院展出品ですが、東日本大震災後、坂村真民の詩集「必ずれば花ひらく」を、繰り返し読むようになり「今を生きる」を素材に選びました。

門下生への指導、書道展出品、浜田一堂先生がご活動の時代は、鍊成会の裏方の生活でしたが、小学1年から高校3年までの体育の時間は、見学をしてきた私にとって書道は正に「人生の杖」となりました。長年御指導を頂きました多くの先生方、書友、家族に感謝をしております。今後も気力が続く限り、一日一日を大切にして精進して参りたいと思っております。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

書道芸術院創立記念日講演会 定例理事会と併せ開催 盛会に



講演会風景

11月23日、本院73回目の創立記念日を迎えて、恒例の特別講演会・祝賀懇親会が開催された。

今回の講演講師は前全国書美術振興会会長（現名誉顧問）、前書写書道教育推進協議会会長（同）、日本の書道ユネスコ登録推進協議会でも会長をお務めになつた荒船清彦先生をお迎えし、「書と国際文化交流」書家から世界へ発信」と題して、会場の上野精養軒に250名余の参加者で大変な盛況であった。

先生は外務省の外交官として、南北アメリカ、アジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界各地での大使を務められ、多彩な経験、該博な知識、更に趣味と

お用意いたいた映像や解説を交え、興味尽きない内容で聴衆を魅了した。

定例理事会開催

講演に先立ち午前中公益財団法人の定例理事会が、小伏竹村顧問、評議員のオブザーバー出席をいただき開催した。主な審議事項・報告事項は

- ・第73回書道芸術院展・第71回全国学生書道展の運営について
- ・単位認定講習会（岡山）実施計画
- ・その他 秋季展実施報告、企画委員会報告
- ・第75回展記念事業への対応など

（詳細は次号院報にて）

秋季展表彰式再開催

10月12日秋季展表彰式は折からの台風19号の直撃を受け研究会・祝賀会と共に開催できなかつたため、講演会に先立ち午後1時より講演会場にて実施した。秋季菊花賞・俊英賞の受賞者に再度お集まついただき授与させていただいた。参列の多くの仲間からの盛大な祝福と共に無事終了した。おめでとうございました。

創立記念日祝賀懇親会

講演会終了後、会場を移して荒船先生のご臨席もいただき、全国の会員と共に祝賀懇親会が賑やかに開催された。ご来賓の毎日書道会西村修一専務理事のご発声で乾杯、その後現代書道20人展、毎日現代の書新春展など各地で

しての書道は本格的な作品制作もされるなど、正にマルチチャレンント。

講演内容は別記報告させていただくが、書と国際文化交流をテーマにして、用意いたいた映像や解説を交え、興味尽きない内容で聴衆を魅了した。

の展覧会の紹介、全国各総支局からのメッセージなどにぎやかに進行した。

地域文化功労者などの紹介も行われた。今月号巻末に紹介しているのでご参照いただきたい。

第71回全国学生書道展審査

71回目を迎えた全国学生書道展の審査が11月6日から10日まで行われ各賞が決定した。今回は前年より半紙・半切½ともやや減少したが、上位入賞作品のレベルは高く充実していた。11月7日のA賞選考は、前日のA賞審査員による予備審査を経て選考委員7名により、厳正かつ総合的な配慮もしつつ各賞を決定した。来年2月の展示に向け諸準備を進行中。

第71回全国学生書道展審査

	出品点数	出品人數	A賞
半 紙	12,191	6,612	95
半切½	2,286	1,848	35

全日本書道連盟講演会 周防正行氏を講師に盛会

全日本書道連盟では春秋2回の講演会を開催しており、春総会時には主に書写書道教育関係、秋には一般的な広汎な内容で講演会を開催している。

11月18日（月）午後2時より国立新美術館3階講堂にて、映画監督の周防正行氏を講師にお願いし、映画の歴史、活動写真時代を主要テーマに、映画作成のご苦労、なぜ日本で「活弁」といわれる独特な演者の世界が成立したのか、など興味ある内容で会場満席の聴衆を惹きつけた。

12月には周防監督制作の「カツベン！」が封切りされる好タイミングでの講演であった。

第72回毎日書道展主要人事

第72回毎日書道展の主要役員人事が検討され内定した。正式決定は12月4日開催の定例理事会にて行われる予定。特別昇格人事、名譽会員・参与会員なども同様。（敬称略）

- ・第72回毎日書道展実行委員長 遠藤 墶（篆刻・扶桑印社）
- ・審査部長 片岡重和（漢字・独立）
- ・総務部長 渡部會山（漢字・創玄）
- ・陳列部長 宮本博志（近詩・書灯）
- ・運営委員（本院関係）
 - 小浜大明（大字）
 - 後藤大峰（刻字）
 - 津田海仙（前衛）
- ・各展実行委員長
 - 東北仙台展 太田蓮紅
 - 北陸展 大石仙岳
 - 中國展 小竹石雲
- ・当番審査員数変更
かな部 25名（17+17）
- 篆刻 5名（6）、刻字 6名（7）

- 前衛 12名（16）

現代詩文書
(三)

高田幽玄

か
な
(三)

須田清子



「心平詩」

からです。
漢字と
かなは、
この全く
性格の異
なる文字

いきます。
実際の作品では字間、空間のリズム、響きあいというのが大切になります。参考作品は木簡のリズムを基調とした試作です。

中でも「木簡」は比較的分かりやすい古典の一つです。リズムが2拍子か3拍子それらが組み合わされて構成されています。かなをそれに合わせてリズムを統一して

書は凝結せる音楽であるという言葉があります。書の古典にはそれぞれ独特のリズムが潜んでいます。これを感じ取って実際に生きた書として再現することが臨書の本質であり、これを作り出す独自のリズムをベースに創作に生かしてゆきます。

心臓の鼓動、呼吸、リズムは生命の証です。

リズムについて
日本語の表記は、漢字・かな・
片かなを中心には多様な文字や記
号・符号によっています。これほど
どの複雑な文字環境は世界でも類
がありません。

世界に統一していくか、現代詩文書の難しさであり、面白さでもあります。

21世紀の書

— 私 の 主 張 —

字を布置した時の印象が違つてくる。
いかにその線の肥痩と曲直等をからみ合わせながら作品に仕上げていくか、どこに間に採用するか本当に難しい。もちろん自分が選ぶ



平成27年書泉会展

須田清子書

美しい書創作のための要素
かな文字に限らず、美しい書を創作するためには、いろいろな要素が必要とされる。第一に線の質である。もちろん文字の形、また紙面上の間の採り方、つまり空間の在り方も大切な要素である。自分が創作する作品全体がそれらの要素により構築していくのだが、一朝一夕にはいかない。まず、かんなの線質を考えてみると、細めで
んだ歌や句によつてもいろいろと考える要素は違つてくる。今回の作品は、書泉会会展で発表した俳句の作品である。少々曲線が多くすぎた感がするが、後から自分の作品を客観的に観た時、今後の課題がでてくる。そのくり返しが牛歩の如くの歩みながら少しづつ進歩させてくれているのかも知れない。そんな思いで作品制作にあたつてゐる現在である。

(公財)書道芸術院

第22回国際交流ウイーン書道展

報告

下 谷 洋 子

いた。

言葉の不自由さもあり、短時間で書を理解して基本用筆など実際に筆を動かしてもらう作業は、教える側も大変

難しいものがあるが、団員一同汗だくになりながらも積極的な参加者の要望に応えていた。

第22回書道芸術院国際交流ウイーン書道展は、10月21日から25日在オーストリア日本大使館広報文化センターにて開催された。今回は財団理事・監事20名の他、訪欧者6名の軸装作品を展示し、滞在中3回のワークショップを行った(1回は小学生対象)理事長

による簡単な書の歴史、書芸術の幅広さが解りやすく紹介され、次に団員全員による丁寧な実技指導に参加者は皆さん思い思いに楽しんでいた。

更に今回は、スロバキアも訪れ、トルバナとプラチスラヴァにて2日間に亘りワークショップを行った。

スロバキアの新美潤大使からは、まだまだ日本文化が行き届いていない国であるため、継続しての活動には是非協力したいとの嬉しいお言葉もいただいた。

このウイーン展は、全面的に書道芸術展は、10月21日から25日在オーストリア日本大使館広報文化センターにて開催された。今回は財団理事・監事20名の他、訪欧者6名の軸装作品を展示し、滞在中3回のワークショップを行った(1回は小学生対象)理事長

【1日目 前田龍雲記】

去る10月20日～25日、「第22回書道芸術院国際交流ウイーン書道展」が在

オーストリア日本大使館広報文化センターで開催された。訪欧団は10月20日～27日まで、辻元理事長はじめ11人

このウイーン展は、全面的に書道芸

術院主導での開催2回目、院の役員作品など26点が展示された。

いきなり私事ですがお付き合いを。

大阪在住の私は、まず伊丹の大阪国際空港から羽田空港へ。20時20分のフライトである。搭乗手続きを何事もなく

いきなり私事ですがお付き合いを。大阪在住の私は、まず伊丹の大阪国際空港から羽田空港へ。20時20分のフライトである。搭乗手続きを何事もなく

済ませ待機していると、大阪国際空港でのアナウンスは、「機材不具合のため皆様を飛行機にご案内する時刻は改めてお知らせします。なお、大阪国際空港は20時55分以降のフライトは認められていないため、万が一間に合わない場合は欠航となりますのでご了承ください。」と。何とも幸先悪いアナウンスである。もしこの飛行機が飛ばなければ国際線に間に合わない。と思いながら待合室で過ごした。しばらくすると「何とか間に合うかも知れませんので一応機内にご案内します。座席の奥から順にお並びください。」とのこと。

普通は前の席から案内する。こんな切羽詰まつたのは初めてである。飛び立つたのは空港閉鎖ギリギリの20時54分であった。



理事長による文字解説



陳列作業



作品揮毫の様子

無事辻元大雲理事長はじめ団員と羽

田で合流し、真夜中に出発。オーストリアの首都ウィーンに到着したのは現地早朝。大使館向かいの宿泊ホテルに荷物を置きロビーで陳列作業内容、及びワークショップについて綿密な打合せを行った。

今回の作品は軸装で統一。26人の作品数も会場に丁度よく映える。様々な分野のいろいろな書風の作品群は書道芸術院の真骨頂。幅広さを感じ、バラエティーに富んでいて見飽きない。表具も様々で現地の方々に楽しんでいただけませんでした。

午後からは地元の人を対象としたワークショップを行った。今年も第1回目からの参加者始め、8～10回のリピーターが結構おられる。もちろん初めて抽選も行われること。まず始めに辻元理事長が漢字の生い立ち、字形の変遷。日本独自の文字などについて説明。その後基礎的な筆の使い方など、実技を交えての講義に皆さん興味津々であった。その後思い思いに半紙に練習。仕上げは半紙1/4の用紙に好きな文字を書いて団扇に貼って仕上げていただいた。途中には理事長・常務理事の先生方による作品揮毫も行われた。

【2日目 工藤永翠記】
午前的小学生の部、初めて見るだろ
うと思われる書道用具にワクワク感が
ショップ、「どなたか常駐して教えて
いただけませんか?」と。治安もよく
食事もワインも美味しい。景色も街も
美しい。どなたかいかがですか?



仕上げた団扇を手に



リピーターは様々な文字にチャレンジ



基礎からの練習



ウィーンの小学生たちと

とにかく毎年人気のある書道ワークショップ、「どなたか常駐して教えていただけませんか?」と。治安もよく食事もワインも美味しい。景色も街も美しい。どなたかいかがですか?

ショップ、「どなたか常駐して教えていただけませんか?」と。治安もよく食事もワインも美味しい。景色も街も美しい。どなたかいかがですか?

溢れんばかりの子が殆どの様子でした。そして、辻元理事長の説明を静かに聞き、筆を器用に使い一生懸命書いていました。漢字・ひらがな・カタカナ等で、書きたい文字をはっきりと意思表示し、お友達と同じ文字は書かないような子が多かったように思います。中には万国共通でやんちゃな子もいて、担当された大平先生も苦笑いでましたが、みな短時間で個性ある作品を仕上げ、とても大喜びでした。

午後からの一般の方の部は、日本在住の方も何人か見え、通訳もしていたから思いました。

自分自身もそうですが、目にしたことのないものを見、体験した時の感動は本当に忘れません。今回ワークショップに参加されたウィーンの方々、小学生たちの記憶に少しでも残って、書道に興味をもってくれたらいいなあと心から思いました。

だけたりしてありがとうございました。ワークショップの内容は同じなのですが2日目もリピーターの方がいて、難しい文字や書体に挑戦する方が多かったです。小学生も一般の方も、常務理事の先生方の揮毫の際には、真剣な眼差しで見つめ、通訳された解説を一生懸命聞いていました。

自分自身もそうですが、目にしたことのないものを見、体験した時の感動は本当に忘れません。今回ワークショップに参加されたウィーンの方々、小学生たちの記憶に少しでも残って、書道に興味をもってくれたらいいなあと心から思いました。

だけたりしてありがとうございました。ワークショップの内容は同じなのですが2日目もリピーターの方がいて、難しい文字や書体に挑戦する方が多かったです。小学生も一般の方も、常務理事の先生方の揮毫の際には、真剣な眼差しで見つめ、通訳された解説を一生懸命聞いていました。

【3日目 大平原峰記】



トルナバの街並み②



トルナバの街並み①



筆使いの練習

午前中から高速バスにて1時間30分ほどスロバキアの首都ブラチスラヴァへまず移動。EU加盟国間は、入国手続きもなくスムーズな国境越えでした。

16時30分頃、教会を中心とした美しい町並みの一角にある文化センターに到着。18時からのワークショップに向いました。昨日までは勝手の異なる少し細長い形状の部屋でしたが、辻元理事長の指示のもと、机の配置や掲示資料の提示方法を工夫しながら手際よく準備することができました。

定刻には、20人ほどの地元参加者が

布拉チスラヴァ城域内のレストランで昼食後、ドナウ川河畔のホテルに到着。荷物を預け、しばし休憩。15時30分頃トルノバへ向けて出発しました。これからさらに1時間ほど、広大な田園風景を眺めながらバスは進みました。



トルナバの参加者と

集まり、本番スタート。比較的若い人が多かったように思います。辻元先生による説明に耳を傾ける姿勢は非常に真面目で、熱心に慣れない筆を執る姿はとても印象的で、指導側の私たちも熱が入りました。途中、常務理事3人の先生方による参考揮毫にはみなさん興味津々の様子でした。その後、はがき大ほどの料紙に、練習した中から文字を選んで清書し、全員団扇に貼り付け完了。記念撮影もみなさん笑顔、時間が少し短く忙しい内容でしたが、参加者から指導者に団扇の裏への揮毫を求められるなど、良い雰囲気で終えることができました。表音文字を使うス



スロバキア旧市庁舎前にて



布拉チスラヴァ城

【4日目 九條純代記】

10月24日（木）午前中は布拉チスラヴァ旧市街観光。昨年に比べて観光客がずいぶん増えたと感じました。それは中国の方が急増しているからだそうです。理事長、常務理事の先生方は日本大使館に表敬訪問へ。

と計3回のワークショップを開催するというハードなスケジュールでしたが、本日は国境を越えてのバス移動とワークショップという内容です。

トルノバへ向けて出発しました。ここからさらに1時間ほど、広大な田園風景を眺めながらバスは進みました。

16時30分頃、教会を中心とした美しい町並みの一角にある文化センターに到着。18時からのワークショップに向いました。昨日までは勝手の異なる少し細長い形状の部屋でしたが、辻元理事長の指示のもと、机の配置や掲示資料の提示方法を工夫しながら手際よく準備することができました。

定刻には、20人ほどの地元参加者が

ロバキアのみなさんでしたが、表意文字の書に触れてみようという思いが強く感じられました。片付けは慣れてきて手際よく、20時には会場を後にすることができました。

布拉チスラヴァのホテルへ帰着後食事、あっという間の一日でした。

布拉チスラヴァのみなさんでしたが、表意文字の書に触れてみようという思いが強く感じられました。片付けは慣れてきて手際よく、20時には会場を後にすことができました。



思い思いの文字を団扇に仕上げた



ルソヴツエでのワークショップ

午後4時、バスでワークショップ会場のあるルソヴツエへ移動。会場は教会の集会場。託児所が隣接されていて、子供達の元気な声が響いていました。近くにローマ時代の遺跡が残っており、世界文化遺産登録申請中とのこと。また、廃墟になった城もあり、この歴史的遺産を何とか復旧できないものかと思いました。

ワークショップは午後6時から7時半まで。若い方が多く、経験者は一人。親について来た子供達も急速参加し、総勢23名でした。

短い時間で日本の書を理解することは難しいかと思いましたが、言葉の壁を越えて嬉しそうに筆を持ち、文字や絵を筆で書き、団扇作品を仕上げました。教える我々も学ぶことが多く、教えながら教わった感。多くの方に日本

の書を知つてもらいたいと思いました。

ワークショップは午後6時から7時半まで。若い方が多く、経験者は一人。親について来た子供達も急速参加し、総勢23名でした。

午後4時、バスでワークショップ会場のあるルソヴツエへ移動。会場は教会の集会場。託児所が隣接されていて、子供達の元気な声が響いていました。近くにローマ時代の遺跡が残っており、世界文化遺産登録申請中のこと。また、廃墟になった城もあり、この歴史的遺産を何とか復旧できないものかと思いました。

【5日目 前田龍雲記】

午前中はスロバキア郊外にあるデヴィーン城へ。ドナウ川とモラヴァ川が合流する崖の上にある古城跡を見学。ケルト人がこの地に住みはじめるとき城壁を築きはじめ、とくにローマ帝国がドナウ川を事実上の国境と見なした時代には強固な城壁となつた。ドナウ川以北

では最初といわれる教会もこのデヴィーン城内に建てられた。1809年にナポレオンに攻め落とされるまでは、ブラチスラヴァ城同様ローマ帝国の重要な要塞としての役割を果たしていた。城はナポレオン一世率いるフランス軍に破壊されたが、城内にはさまざまな遺構が残っている。内部も一般公開され、城跡に上れば360度パノラマの絶景で人気の観光スポットになつてている。

午前中、スロバキアのブチ觀光を終え、一行は展覧会作品撤収のため一路ウイーンへ。作品を厳重に梱包して持ち帰ることに。夜は行程の反省会を兼ねての夕食。来年に向けての展望が話された。

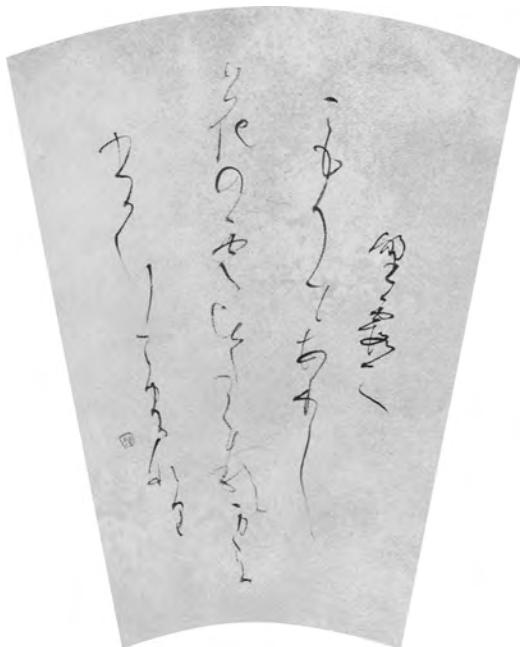


崖の上のデヴィーン城より



今回の一行

まだまだ出来そうなことが多い。このような機会がなければ訪れることが多い場所に行け、実り多い旅である。しばらくこの企画は継続するとのこと。公益財團法人としてのこの事業にまだご参加いただけていない方は機会を設けて是非同行していただきたいと切に願う。世界は広い。



下谷洋子
花の雲



辻元大雲
片山由美子句



後藤大峰
亀鶴



小竹石雲
令月

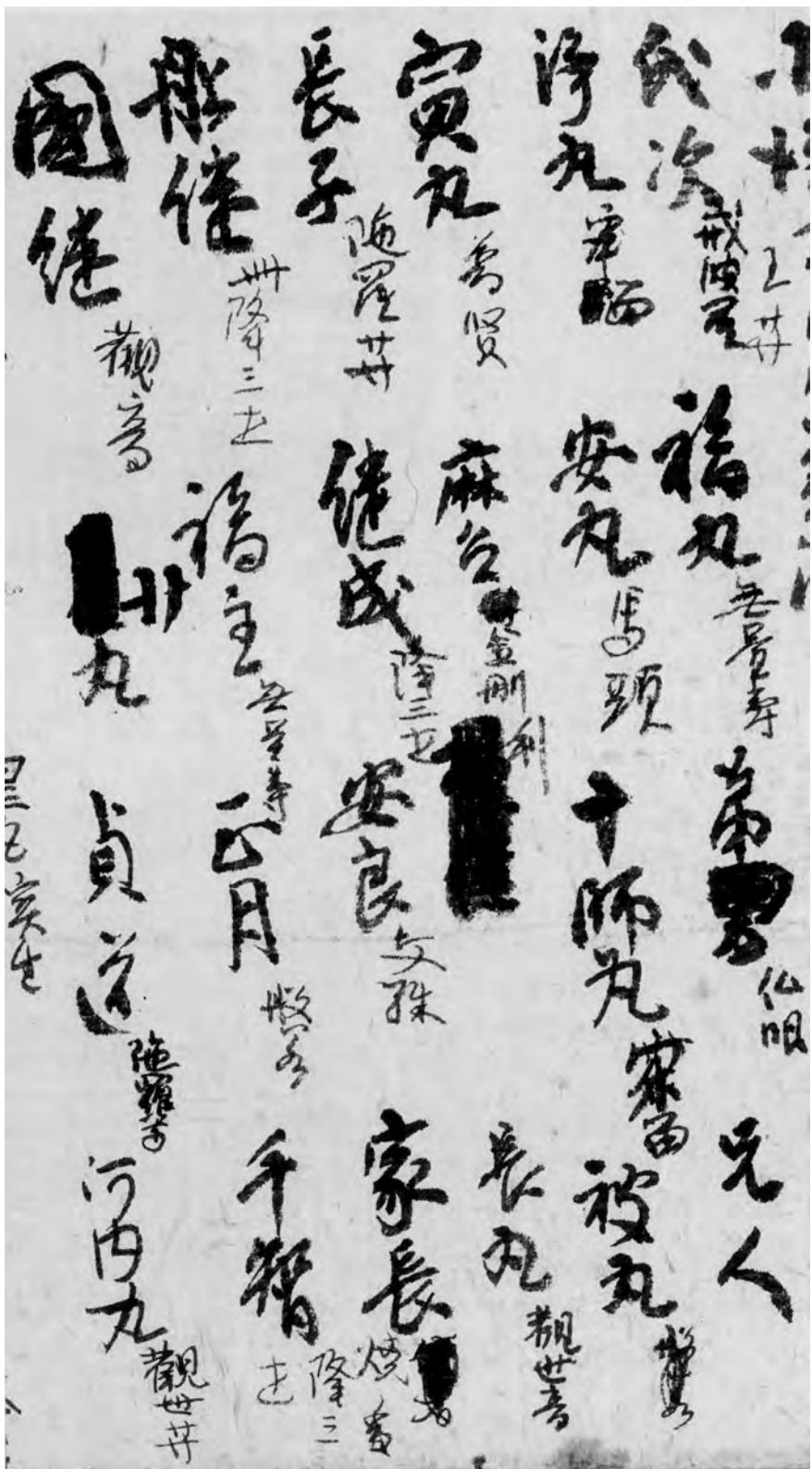
灌頂歴名

(平安) 空海 ③

氏次戒靈羅	福丸無量壽	弟男仏眼	兄人
淨丸	安丸	十師丸	被丸
寅丸普賢	麻呂	長丸	長
長子陀羅井(善應)	繼成	良	家長
船繼(善隆三世)	福主	正月	勝光明院
國繼	廿丸	千智	世
貞道陀羅尊	貞道	世	後子多法皇
河内丸	河内丸	世	(1308)

〈解説〉灌頂歴名は、空海が高雄山寺(神護寺)で灌頂を受けたときの受法者の名簿である。冒頭の最澄はこの時すでに天台宗の開祖として仏教界を主導していたが、密教を深く学んだ空海に教えを請うために弟子の泰範光定らとともに参加した。この一巻は早く寺外に流出し、鳥羽離宮内の勝光明院の宝蔵に収められていたが、徳治3年(1308)に後子多法皇(1267-1324)によって神護寺に返還された。現在、国宝に指定されている。わが国宗教史上で重要な古記録であるとともに、おおらかで力強い卒意の書は、空海の自由闊達な書風を知ることができる貴重な資料である。

(編集部)



(神護寺蔵)

(掲載図版70%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみ可)

漢字研究部臨書課題 = (半紙普通判・縦使用) 上記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

すくよのまはれ

ちうまくとれ

つきもの城

きくねみこもみ
にしつよみ

さきまも

(曼殊院蔵)

曼殊院本古今和歌集

(伝 藤原行成)③

よみ

すみよしのきしの
ひめまつひとならば
いくよかへしとふ
べきものを
あづさゆみいそべの
こまつたがよにかよろ
づよかねてたねを
まきけむ

解説

曼殊院本古今和歌集は、平安朝の古筆の中で最小の巻物である。(縦14.2cm、全長286cm)表紙は、明から舶來の萬曆緞子の裂が使用され、その左上に短冊形の題簽が貼られ、「行成卿筆」と墨書されている。見返しには茶地に金泥・銀泥墨で草・流水・小鳥が描かれている。

王朝貴族の高貴な美意識を感じさせる装丁や、書そのものの芸術性から見ても、平安古筆の代表的遺品の一つである。
京都市左京区の曼殊院に伝来し、国宝に指定されている。現在は京都国立博物館に寄託されている。

(編集部)

特別研究部
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

かな研究部
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半葉紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

古筆鑑賞

189

※掲載図版は原寸

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましよう。

習い方解説 (三)

千葉蒼玄

日月盈昃
(千字文)

日月盈昃

（千字文）

日は太陽のこと、月は月のかけ

た三日月。盈は満ちるまん丸を指

し、昃はかたむくという意。太陽

は昇り傾き、月は満ち欠ける。日

は丸、月はかけた形を表現したか

たが、うまく表現できただろうか。

文字そのものには持つて生まれた

形があるが、その中にある意味も

感じて書くことも大切である。

参考に流れのある行書とは両極

の、造像記の筆法で書いてみた。

（参考作品）



日月盈昃 よみ（日月盈昃）

書体＝自由



習い方解説(三)

坂本素雪

温慈惠和
(温慈惠和)

今月の楷書手本は、画数の多い
分キリリと線を絞り、スマートな
字形にされています。

「温」=旁が偏より少し上がる様に
する。

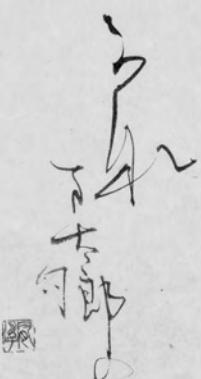
「慈・惠」=心をゆったり入れる為
上半身は右肩上がりに、
又心の3画目の点が中
心に少し掛かるぐらい
を目安に書いて下さい。

「和」=画数が少ない分少し太めに
書いてバランスを取って下
さい。

習い方解説 (三)

鈴木せつ子

しらぎくの夕影ふくみそめしかな
(久保田万太郎)



よみ方 しらぎく(久)の夕影ふ(布)く(久)み(身)そ(楚)め(免)し(志)か(可)な(那) 万太郎の句

創作

今回の散らし書きは、基本的な
かなは連綿することによって、
同じ字体かなでも姿が変わります。
実線による連綿、筆の運びとして
の意連、線の豊かさや鋭さ、柔ら
かさが表現できたらと思います。

久保田万太郎 (1889~1963) 41歳の
句です。白菊をあえてかな書きに
したのは、夕影のただよう様を感じ
させようという周到な意図から
とか。俳句は一般的に「名詞かな
止め」が多いが、万太郎はこの
「そめしかな」のように動詞や形
容詞に「かな」を付けた「かな止
め」の句が多い。「句はさり気な
く詠え、句は浮かぶもの」と度々
言って、こうした表現をしたと思
われます。

映えよく、調和がとれればと入れ
てみました。

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)

よみ方 さつき(支)やみお(於)ばつか(可)な(那)き(支)に(尔)ほ(本)とど(ノ)あす(須)
なく(久)な(那)るこゑのいとど(ノ)は(者)るけさ明(日)香王子

習い方解説 (三)

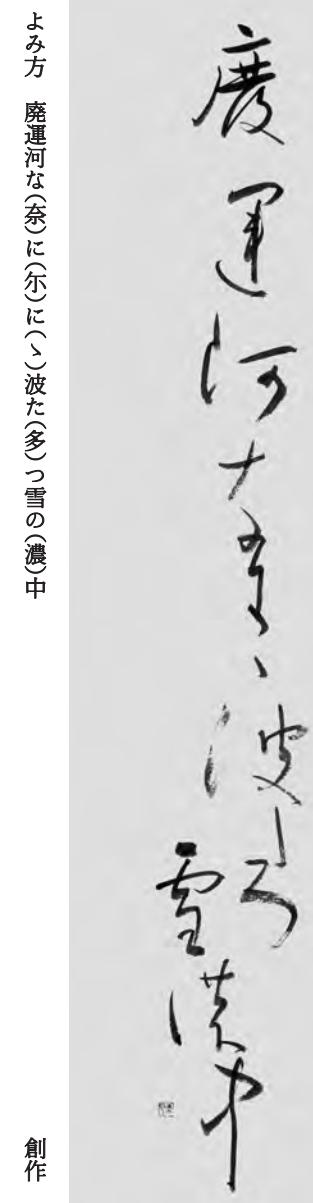
佐藤 希雲

秋桜子・『残鐘』

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

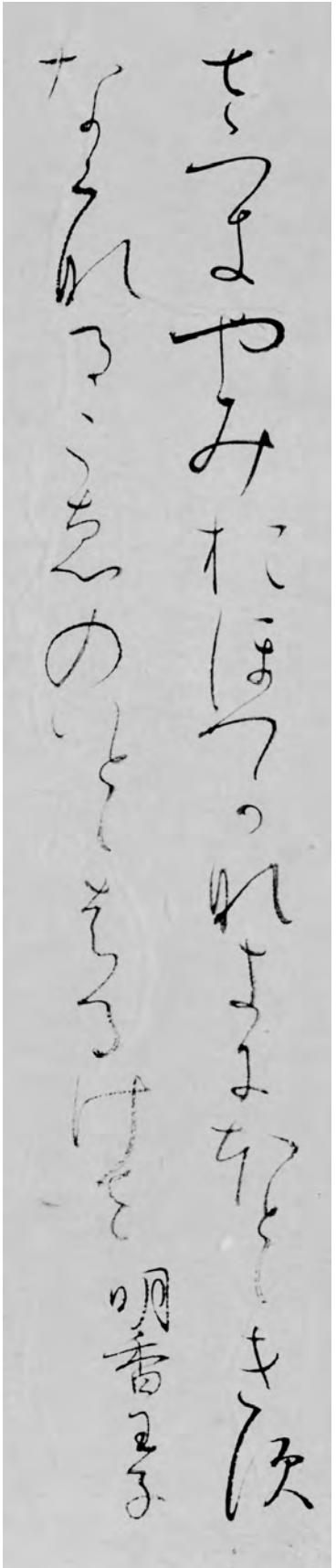
佐藤 希雲 選書

秋桜子の第十四句集『残鐘』より。病床についていた石田波郷を見舞う途中、小名木川を見て詠んだ句。川面に立つ波は、作者の心の波でもあるのでしょうか。



創作

よみ方 廃運河な(奈)に(尔)に(ノ)波た(多)つ雪の(濃)中
してみてください。



*タテ形式に限る

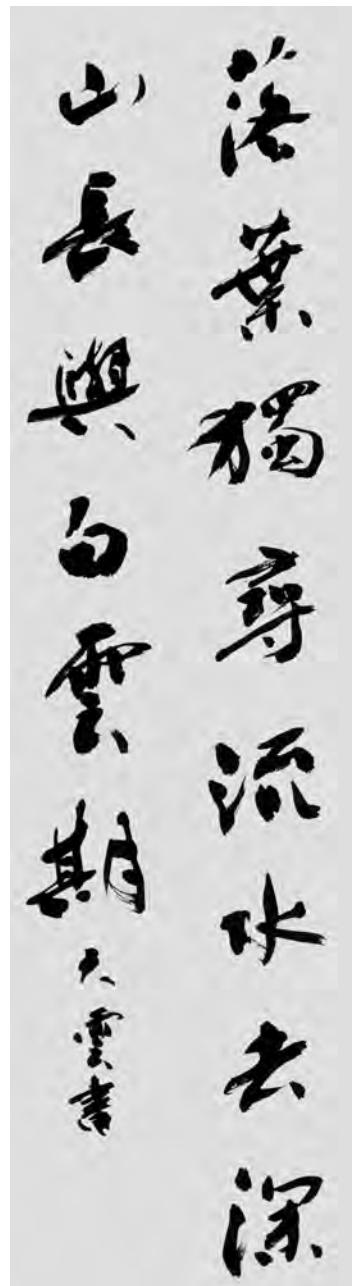
漢字条幅規定 初段以上【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

辻元大雲選書

習い方解説 (三)

辻元大雲



書体=自由

今シリーズは七言一句で対句の語句を選んでおります。また秋から冬の時候の句を選びましたので、同じ文字(雲・落)などが毎回出てきます。
字形の変化は書体が違えば当然ですが、同じ行書草書であっても微妙に変化するものであり、変化させたいところでもあります。線の太細、墨の潤渴、運筆のリズムの変化など様々に表情を変えます。これが書の魅力でもあります。

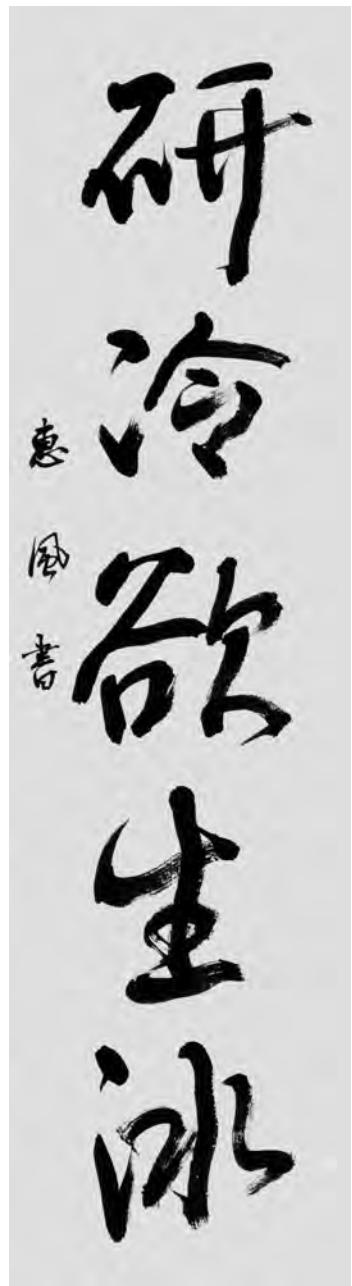
*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

崎井恵風選書

習い方解説 (三)

崎井恵風



書体=自由

研は硯。冬の硯の冷たく水が張ろうとしている。厳寒の様が伝わります。引き続き顔真卿の書法で5文字作品としました。1行書きは特に中心に気をつけて、流れのある作品に仕上げてください。

*濃墨・短めの羊毛筆を使用。

研冷欲生冰
(研冷かに氷を生ぜんと欲す)

惠風書

山田梓江

定家は七十二歳で出家し、

和歌の研究など一時代時

に歌会に招かれ、そのとき

宇都宮頼綱に依頼されて

百首を撰んだ。梓江書



3カ月間藤原定家の人物像に関わってい
ると、定家先生と言いたい位の親しみを感じ
ます。

定家は73歳を過ぎて出家をしました。そ
の後盛んに和歌などの研究をしていました。
ある時、宇都宮頼綱(宇都宮蓮生)の歌会
に招待され出向いたところ、山荘の主人蓮
生から意外な依頼を受けました。それは
「山荘の棟に10枚の色紙を貼りたいので最
高の歌人の最高の和歌を選んで欲しい」と。
責任重大とは思いましたが、そこは研究熱
心な定家先生のこと、小倉山にある自分の
山荘に籠り、多くの和歌集を参考にして1
ヵ月かけて百人の最高の歌人を選び、次に
その歌人の最高の歌を選び抜いていきました。このようにして小倉百人一首が生まれ
ました。

今日は、リラックスして少し柔らかく書
いてみて下さい。

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No.702



漢字部 師範 浪川 秋花
軽妙な筆致で書かれた漢簡風の草隸。淀みない運筆とバランスの良い字形に熟練の技が窺える。

◎漢字部総評 上級者は楷書作品が多く見られたが、書体・書風共に多様で、着実な学書を背景にした魅力的な作が多かった。(萬城評)



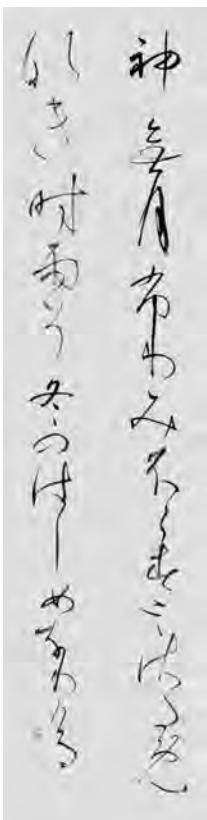
前衛書部 特選 馬場 邑舜
丁寧に組み立てた構成が、ユーモアと和みと魅力を創出した。こう書けど筆で表すのは大変です。

◎前衛書部総評 用紙がマッチしない作品があり少し残念。用紙選択の工夫を望みます。(慧香評)



現代詩文書部 特選 吉田 景輝
文字の造形が、俳句の繊細な表現と相まって、風情豊かな世界を展開している。

◎現代詩文書部総評 素材との出会いと表現の多様性、今後も期待しています。(掃雪評)



かな条幅部 師範 磯貝 清耀
穏やかなリズムながら転折が利き、基本踏まえたかなの動きで美しい。墨の扱いも巧みで潤滑白眉。

◎かな条幅部総評 上級1行書は安定作多かつたが、平凡な表現が目立つた。下級1行書同様、更に表現上の工夫を求む。(大雲評)



かな部 師範 阿久澤隆華
動きが大きく艶やかな線質が古典美と現代美を併せ持つ作品にしている。格調高さは作者の人柄か。

◎かな部総評 参考手本に依存しそぎの傾向で残念。創作の困難さと楽しさへ向って下さい。変体がな九、徒を再確認。(明子評)

「百人一首」とは百人の歌人の秀歌を一首ずつまとめたもの。小倉百人一首は藤原定家が撰んだものである。喜美代書

ペン字部 師範 石毛喜美代
漢字かなの絶妙なバランスと、端正でしなやかな筆致が見事。まさに躍動感と気品に満ちた作品。紙面の余白を工夫し、引き締まった作品作りの研鑽を。(孝子評)

◎ペン字部総評 全体的に誤字も少なく、丁寧な作品が多くあった。端正でしなやかな筆致が見事。まさに躍動感と気品に満ちた作品。

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 半田藤扇 山口仙草 奥田瑞舟

漢字 (百谷) 本郷谷恵 「李遠詩」



176×57cm

◆筆勢のある強靭な作風で一気呵成に書きあげた。表現力の難度がものをいう。更に線質の研究を望む。
(藤扇評)

◆五言一句10字を大きな運筆と歯切れよいリズムで表現。スケールの大きな作だが筆脈の流れを更に。

◆2本の筆を使用でどうか。やわらかさと強さのある表現豈かな作。2行目少し上で終了がよいと思います。
(大雲評)

本郷谷恵書

前衛書 (篤信) 三浦朱鳳 「舞」



140×60cm

◆強勁な力強い線が冴え、見応えのある作となっている。更に鍛度を高める研鑽を重ねることを望みます。
(仙草評)

◆筆さばきの見事さが、日頃の磨きから生じてくるのだろう。濃墨による重量感が作品を更に高度に。
(藤扇評)

◆濃墨での作品、飛沫もマッチして躍るような円の動き。。。題名は「舞」、強いリズムが伝わります。
(瑞舟評)

三浦朱鳳書

◆超濃墨による質感と、激しさを伴う連筆が、大きな動きとなつて観者に迫ってくる。雅印位置一考を。
(大雲評)

現代詩文書 (八戸) 市川紫泉「斎藤茂吉の歌」



60×180cm

◆李遠詩10文字をスケール大きく充実した筆力で表現。文字バランスと墨色一考要す。
(仙草評)

◆明るさとほのかな詩情を漂わす、滋味溢れる作。前半と後半の構成にやや食い足りなさを感じる。
(大雲評)

市川紫泉書

◆淡々とした表現だが、観る側に詩情を漂わせる雰囲気が見事。最後のまとめを一工夫されたし。
(藤扇評)

◆余白を生かした構成の中で、多彩な線質が見えて面白い。崩した字形の位置長さが少し気になる。
(瑞舟評)

◆横展開の空間処理が巧みで、何より余白が美しい。読みづらい文字もあり、字形のデフォルメ一考を。
(仙草評)

漢字研究部
(灌頂歴名)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



田中岳舟

漢字研究部 特選 田中岳舟

緩急自在、スケール大きく見事な作です。
線質には顔真卿の趣きが感じられ、ふくよか
で温かい精神性が伝わって来ます。より一層、
深味のある書を追求されますよう、次回の作
品も期待しています。

◎漢字研究部總評

灌頂歴名は、空海が胎藏界・金剛界の灌頂
を受けた者、凡そ百五十人の名前を自ら書か

れたものです。人に見せる為、作品にしよう
と思って書かれたものでなく、心のままに書
かれたもので、自由自在な自然な筆法で「卒
意の書」と言われています。学書するにあたっ
ては、まず、書かれた時代、人物、目的など
背景を知ることが大事です。修養を積み重ね
られ心・技共に磨かれた高僧空海の書を学ぶ
には、学ぶ私達も心と技を磨く努力が必須だ
と考えます。



白雅琉直菜龍
香泉泉子摘峰

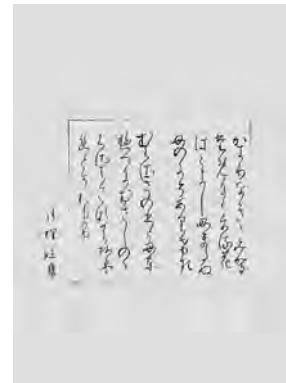
晶絢博藤香志
子水美瓊蘭扇

睦紅竹与春舜
称月雨鳳子麗水

典和紅麻衣
翠城子栄苑子

選評 松村 くに子

今月のホープ作品



磯貝清耀

○かな研究部總評
線の太細に墨色の変化など、全体的に古筆の特徴をよく捉えていました。誤字が少し目立ちました。さらに長い連綿線の息づかいも見事である。
原帖の他の箇所や辞典などで研究をしてください。

芳優幹 花香和 淑淳萩 紹美子
枝子生 子舟子 子江子

かな研究部成績表

大正椿久有玉松秀	青桜上琇水蕙高天う一た東蕙蘭う京紅清樹春大椿宗紅大草泉韻海書井策る草か伯書鼎る橋瑠月原汀阪翠苑風雲	特選
阪華翠賀秋野島剣川木木百	沼松萩吉根坂榎中木中梅山關川飯東須境近佐小平茂田磯貝と佳	特選
小岡大岩石青青作	田本原川岸本里村津本口崎高	木山木
萩麻昌祥洋松葵美光子苑子月鄉	萩合洋幸み里和星順一代真芳優幹花香和淑淳萩つ紬美子	寿雲
坪和佳	心子子惠子美子子琴子紀枝子生子舟子子江子水子	雲
安藤作	吉山山安八三三松春原早長苗中富積田竹高高春杉代島七櫻後小高黒草田中岸嶋木上浦重岡島坂谷代村中内原橋原浦田	大草川外
裕子	條田藤口武柳川紗眞橋佑和余砂紀裕道翠聰春崩千佳ゲ	美
	雅耶哲智貞幸雅慶幸葉美裕龍良智玄竹眞子子子美子舟子景春汀香境恵子勝雲衣子子子苑泉子子美貞泉子城葉華	雲

椿菊大澄文月阪春筆入	昌幸桜幕高上A澄長 長琇東白大春た A桜黎高誠澄春明八春竹大高英黎高若干こ樹も梅楓澄誠も	洞海
安新天阿青藤美多坊代惠洗知子	吉山守松本堀深平除原林畠野中渡樋寺高鈴神新新下嶋篠佐櫻驚酒斎小木工菊加葛岡大梅宇鶴植岩今井石飯安藤井羽天木志翠梅津翠玉和幸佳は典奈芝美恵紀雪恵美姫玉翠瑞代称美和智美知早弓美山泰翠蕙藤一栄春琴紅祥貴春悦洋楊子子草子	川原
土扇菊正松	大聲硯蘭澄芳八潮や蒼う樹蒼した伏華東白広梓広土大琇大華旭青書黎澄玄中渡土誠帝八花旭蘭八岩誠正千高氣筆松村か拙香水鼎春蘭街音ま原の原陽か中華仙向扇島江島気雲韻阪祥老峰游明春穹川辺氣と塚街舞老鼎街沼と華葉崎	川
杉新島柴鹿猿佐坂齋齊斎齋齋齋紺込小國岸菊菅神川川河川河加金加鹿小小尾大大臼入今井伊伊市石石石石飯田條田田渡藤野々倉藤藤田賀野山林峰	地野田本元本崎合納岡藤瀬島野田川形島津井木上藤藤川渡崎川田島	島
芳正竹己無桜祥遷蘭華美未門草紫ま仙鼎縹街璋汀阪習会月春仙紅雲紫大松春阪橋泉鼎原か松路春田	千大秀も高一泉立有旭上玉葉	千
109渡鶯横名遷沼山根久氏名略信將蘭美清美	山山山山森村武富宮松増前本堀船藤深廣春早林早浜橋乘浪中戸富富戸鶴鶴辻千武高高関鈴鉢木上藤野坂丸坂田田川田切木本江堀地山部坂野本船川野江村原田澤部淵田田山橋木美登と恵み	木理千代利
	信將蘭美清美律雪直貴佳奈津秋愛津佳華瑛美幸悦喜し清美勝雅梅永紅抱秋美よ博扇萩蕙藤亞雅洋白花真代子子心子	子心子

芳正竹己無桜祥遷蘭華美未門草紫ま仙鼎縹街璋汀阪習会月春仙紅雲紫大松春阪橋泉鼎原か松路春田	千大秀も高一泉立有旭上玉葉	千
109渡鶯横名遷沼山根久氏名略信將蘭美清美	山山山山森村武富宮松増前本堀船藤深廣春早林早浜橋乘浪中戸富富戸鶴鶴辻千武高高関鈴鉢木上藤野坂丸坂田田川田切木本江堀地山部坂野本船川野江村原田澤部淵田田山橋木美登と恵み	木理千代利
	信將蘭美清美律雪直貴佳奈津秋愛津佳華瑛美幸悦喜し清美勝雅梅永紅抱秋美よ博扇萩蕙藤亞雅洋白花真代子子心子	子心子